



2016年3月期 第2四半期
決算説明会 資料

ジーエルサイエンス株式会社
2015年12月2日

目次

1. 中期経営計画について
2. 上期のトピックス
3. 主要製品の動向
4. 新製品の紹介
5. 業績推移と計画



中期経営計画について
(2016年3月期～2018年3月期)

中期経営計画

おかげさまで当社は2018年3月期(第51期)で、創立50周年を迎えます。
そこで50周年に向けて今期より、3ヵ年計画である中期経営計画をスタートしております。

単位:百万円	2015年3月期 実績	2018年3月期 計画	増加額	増加率
売上高	11,710	12,800	1,090	9.3%
営業利益	515	800	285	55.5%
営業利益率(%)	4.4%	6.3%	-	1.9ポイント

基本方針

1. 新製品開発力の強化(新製品早期リリースの実現)

2014年度で福島・武蔵での開発棟の整備は完了。2015年度より本格稼働開始。

2. 全社業務改革

営業業務システムの刷新。物流倉庫機能の強化。人事給与システムの導入。
海外輸出入業務システムの導入。

3. 新規事業の柱の創出

国内外市場を見据えた、モノリス技術を中心とするバイオ関連事業。

4. 生産部門の新棟建設

主力製品製造用の新棟建設により、海外需要における増産体制を強化。



上期のトピックス

上期のトピックス①

《新人教育》

従来の新卒新入社員研修は短期間での実施であったため、その期間で学べる内容には限界がありました。本年度より新卒新入社員における教育研修や配属時期を大幅に見直し、配属前に長期（1年間）の実務研修を実施することに致しました。当社はメーカーであり、まずは物づくりの基本を学んでもらうことを第一に考え、加えてGL社員としての意識や行動、また基礎的な知識や技術を身につけてもらう事を目的に、入社後最初の6ヶ月間は全員福島工場にて実務研修をおこないます。

次の6ヶ月は、本配属先以外の拠点（部署）での実務研修となります。この研修の狙いは、以下の通りです。

- ①当社の各種基本業務の基礎を理解してもらう
- ②複数の部署を経験することにより各部門の繋がりや関係を理解してもらう
- ③人的ネットワークの形成
- ④自身の今後の適性を把握する材料にしてもらう

＜福島工場での研修風景＞

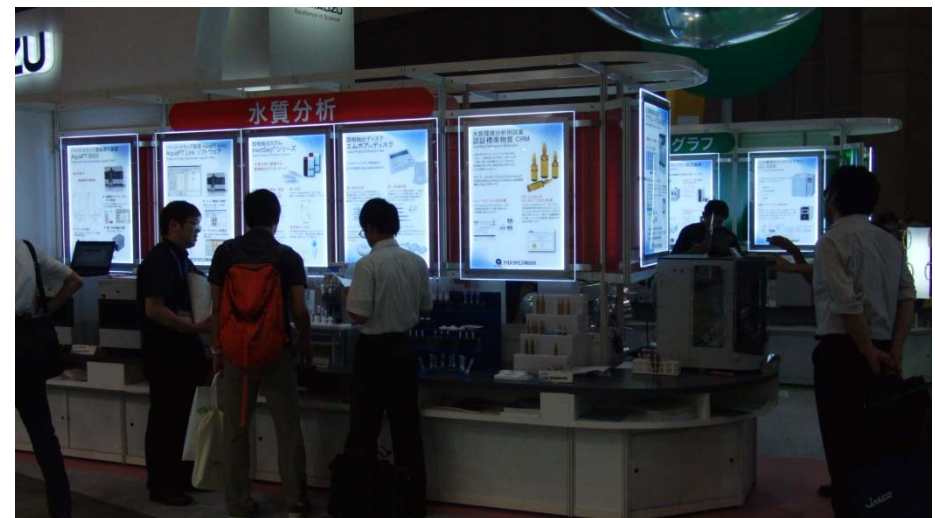
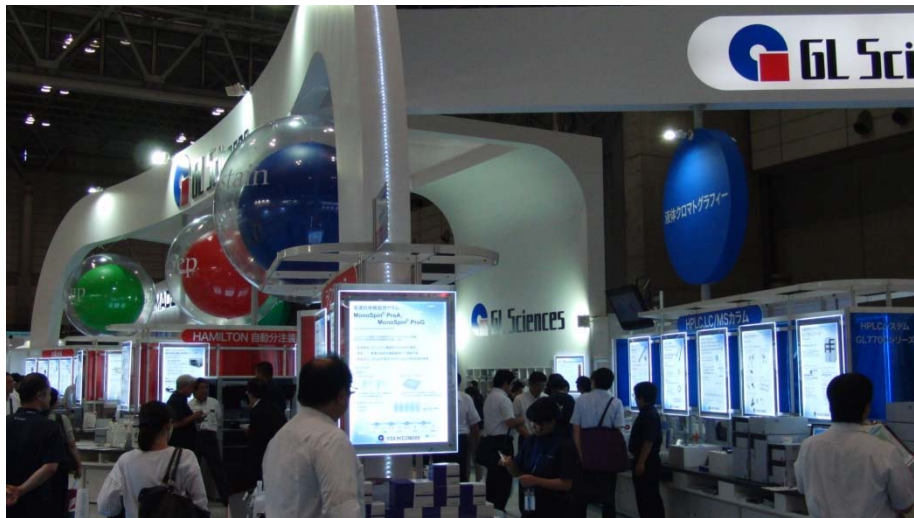


上期のトピックス②-1

《JASIS》 9/2~9/4 幕張メッセ国際展示場(4~8ホール)

当社ブースには来場者数**2,066名**（3日間合計）の集客。 ※昨年1,869名

JASISを通し、新規のお客様も多くご来場されました
GC装置やLC装置を始め、さまざまな商品のお引き合をいただいております。



＜参考＞

展示会（JASIS2015：来場者情報）

GLブースの来場者数

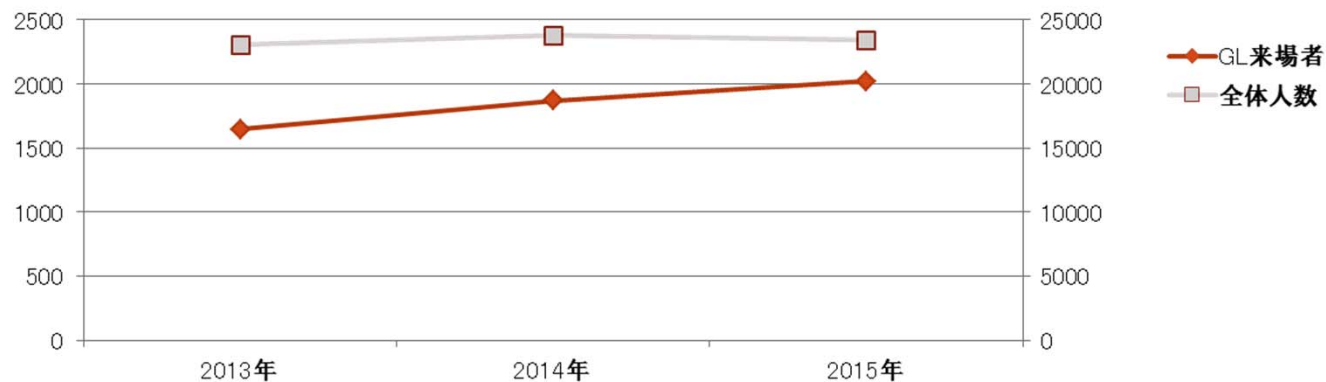
	2013	2014	2015
初日	388	497	567
二日目	566	639	651
三日目	737	733	848
資料請求合計	1,691	1,869	2,066

分析展全体の来場者数

	2013年度	2014	2015
初日	7,131	7,960	7,859
二日目	7,644	7,706	7,410
三日目	8,259	8,128	8,139
合計	23,034	23,794	23,408

ブースでは約10.5%の増加

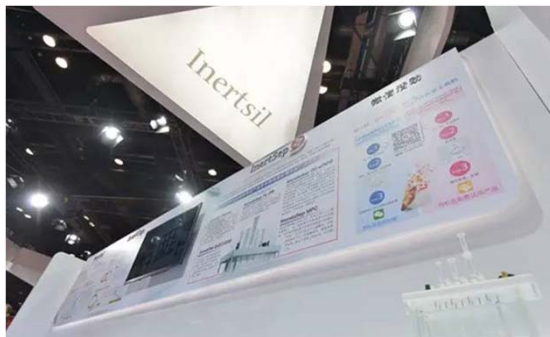
JASIS全体では微減



上期のトピックス②-2

《中国での展示会 BCEIA》

中国最大級の展示会“BCEIA”が10月に開催されました。当社の主力製品である“Inertsil”を全面に出した展示会とし、ブランドイメージの確立を目的に行いました。とても反響が大きく、多くのお客様にご来場いただきました。



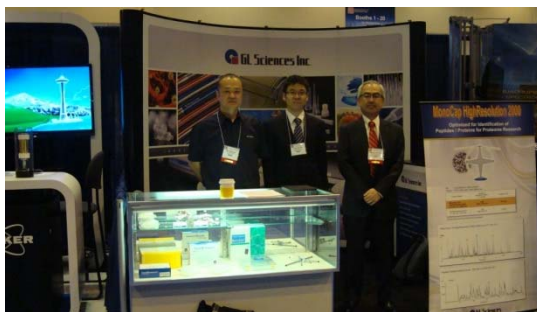
上期のトピックス②-3 《米国での学会・展示会 ASMS、PITTCON》

業界最大級の学会・展示会にも出展し、最新の情報収集をはじめ、当社の知名度アップに向けた活動を行っています。

◆ PITTCON 2015年3月



◆ ASMS 2015年10月

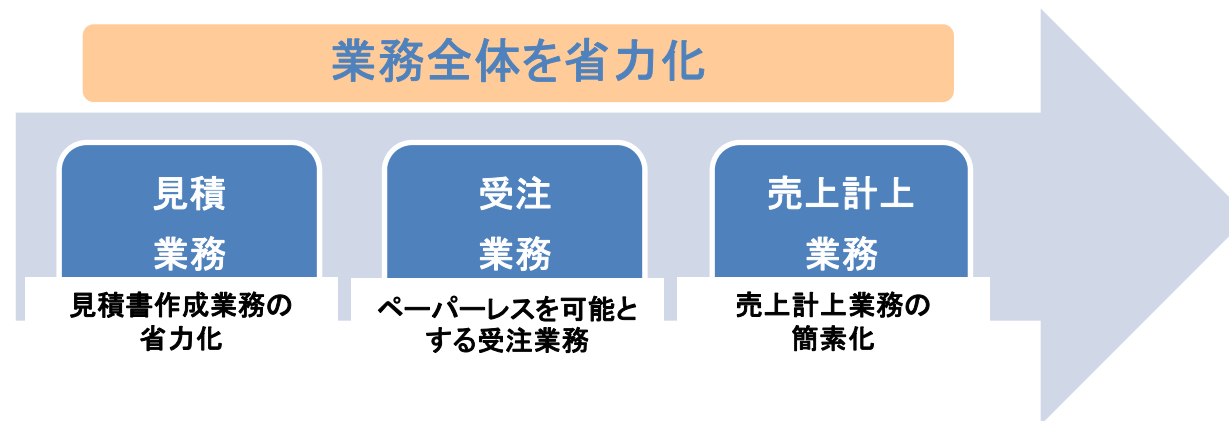


上期のトピックス③

《業務改革プロジェクト》

販売管理システムの改善

現在運用している販売管理システムを2016年～2018年にかけて改善することにいたしました。それに先駆け上半期では、見積業務→受注業務→売上計上業務 における改善内容を洗い出し、業務内容の省力化に向けた「業務フロー」を完成させました。

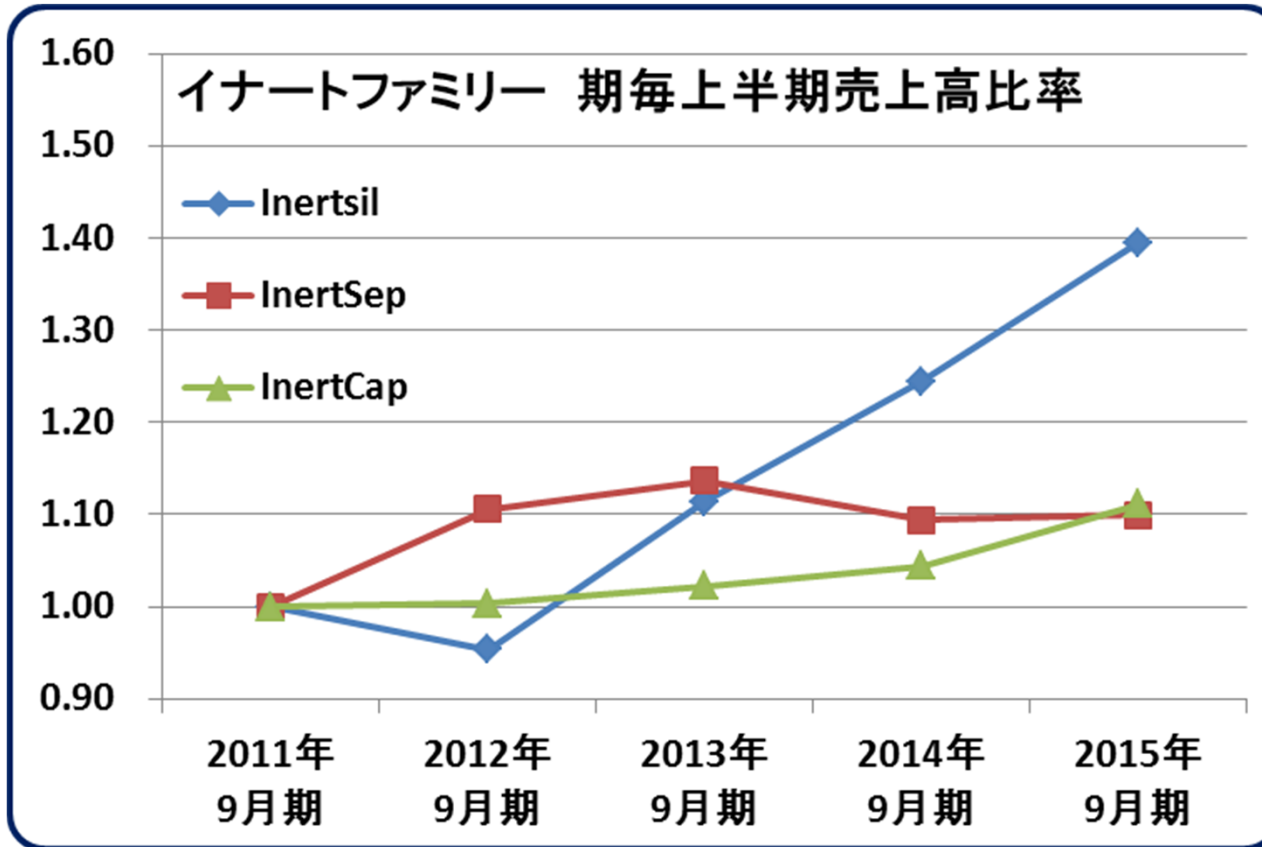


また、本システムを自社開発していくことで、弊社に適したシステムが構築でき、外部システムと比較しても費用を抑制することができます。



主要製品の動向

主な製品の動向 1



2011年9月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移



HPLC用カラム Inertsil

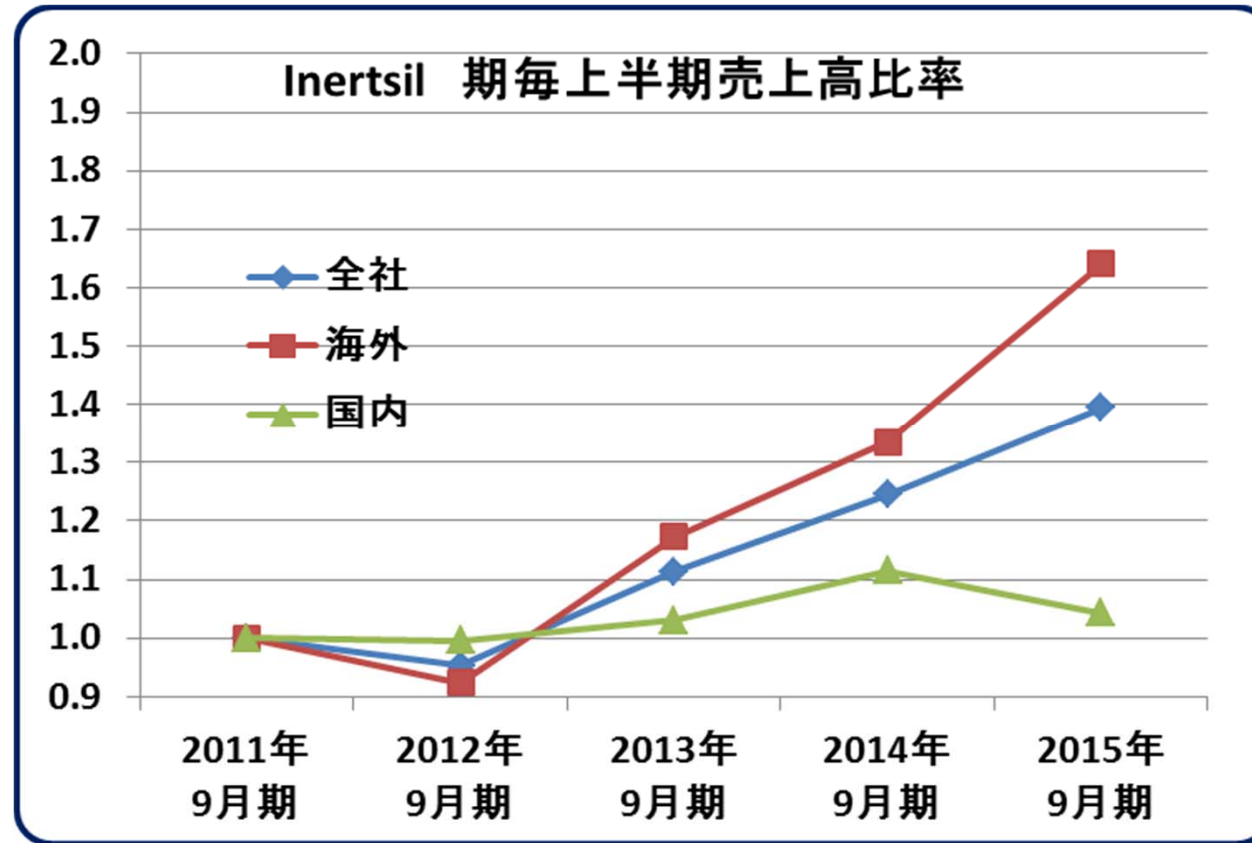


前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

主な製品の動向 1-①



2011年9月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移



HPLC用カラム Inertsil

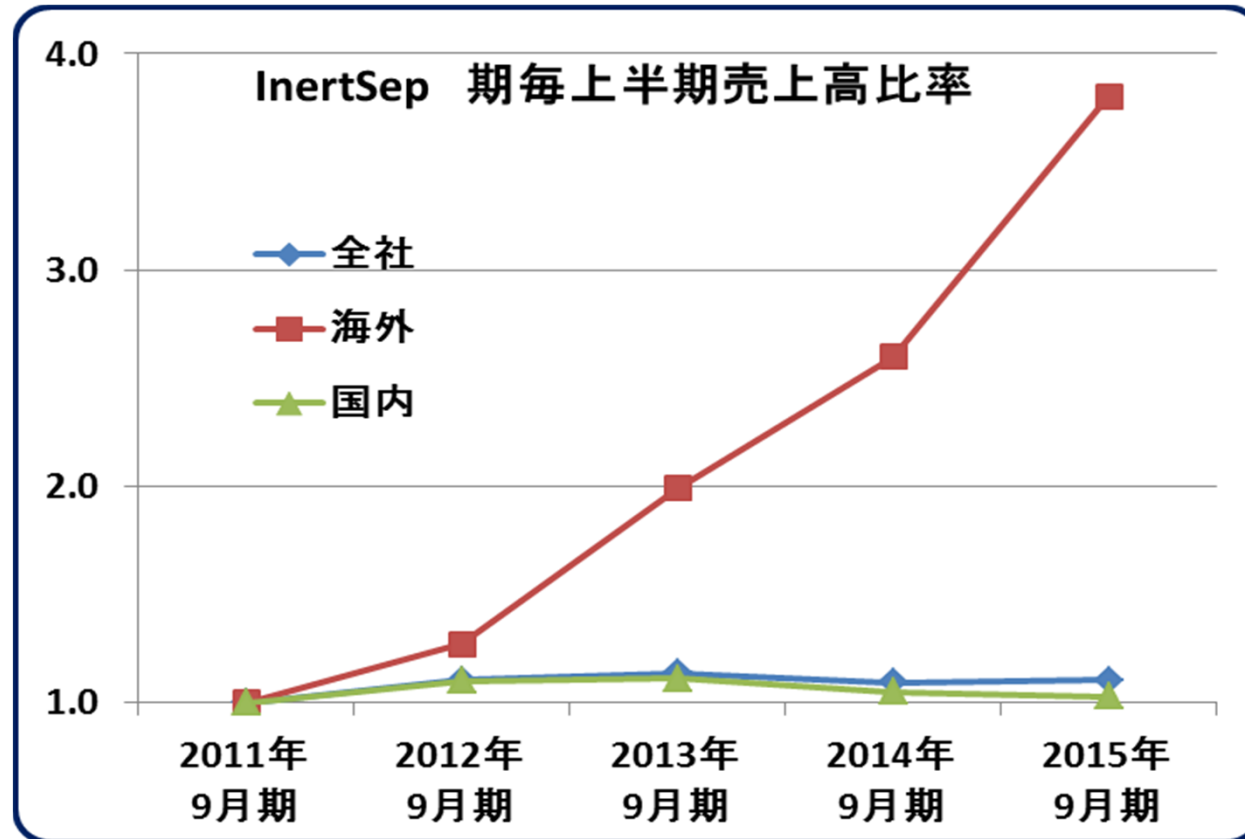


前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

主な製品の動向 1-②



2011年9月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移



HPLC用カラム Inertsil

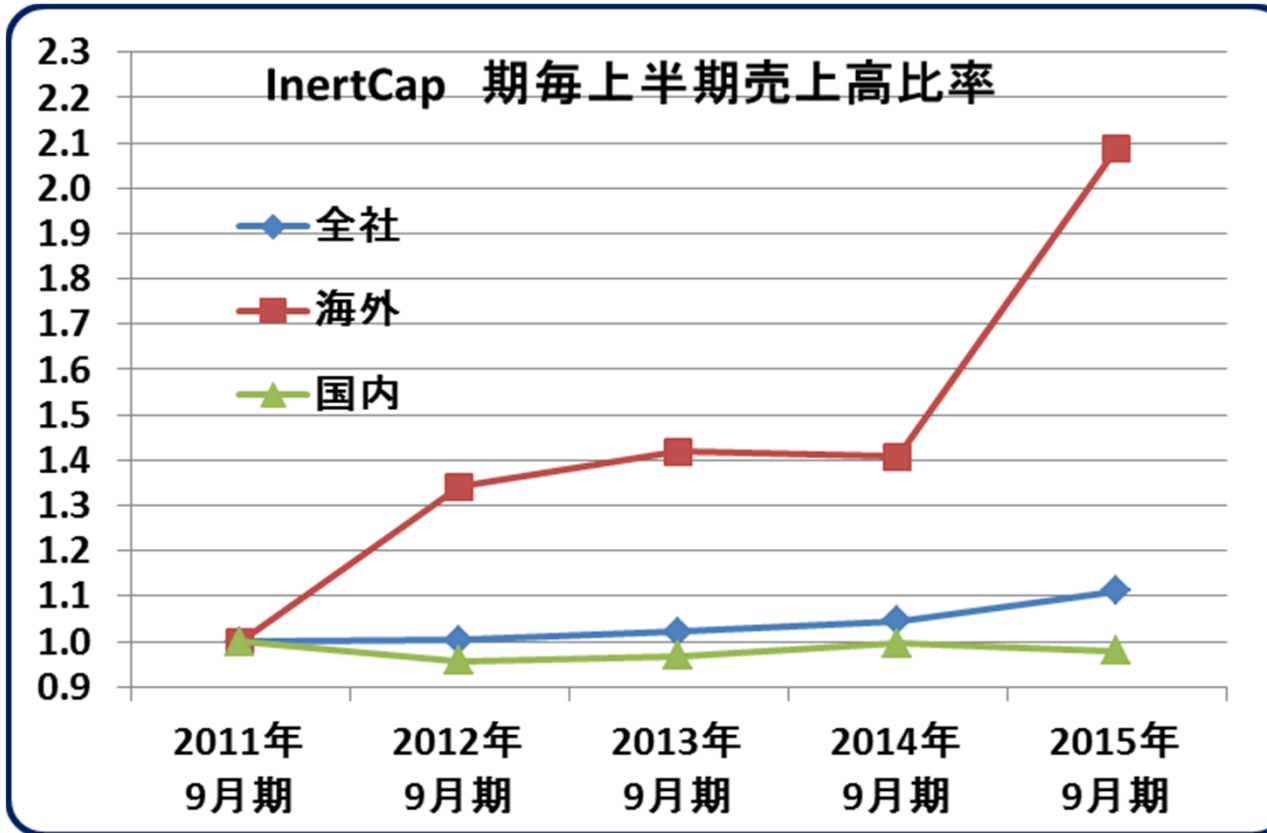


前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

主な製品の動向 1-③



2011年9月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移



HPLC用カラム Inertsil



前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

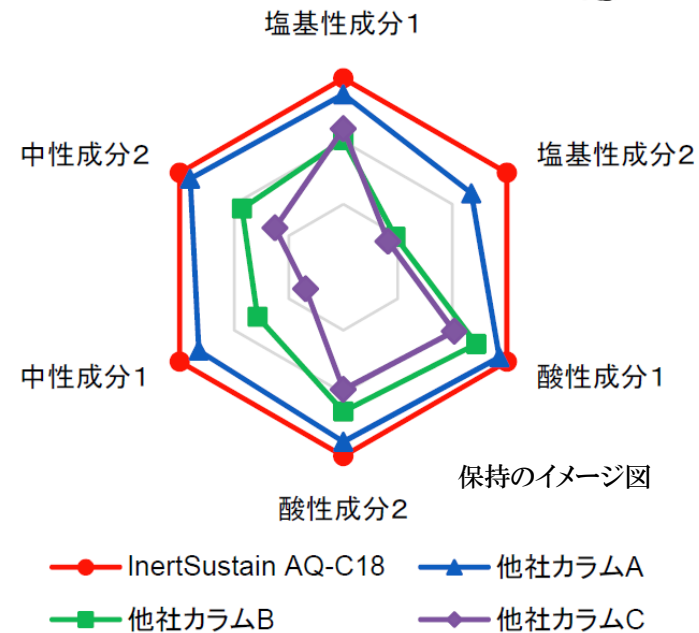


新製品紹介

新製品 ①

高極性化合物分析の問題を改善するHPLCカラム InertSustain® AQ-C18

- 高極性化合物の高保持を実現
- 吸着の少ないODSカラム
- 幅広いpHにおける高い耐久力



新製品 ②

キャニスター濃縮導入装置 CC 2100

CC 2100は、キャニスター濃縮導入装置ACS-2100の後継機種です。

より安定した連続分析が可能になりました。

- 電子式圧力、流量制御の採用
- 液体窒素消費量の削減
- 新型マルチモジュールトラップシステム



新製品 ③

食品分析試料前処理自動化システム G-Prep FAシリーズ

操作段階の人的誤差の排除
個人差・日間差の解消
肉体的負担の軽減
有害物質の取り扱い
メソッド共有が簡単

G-Prep FAは、残留農薬分析等で使用するミニカラム処理に対して、コンディショニングから溶出までの一連の操作を自動化するシステムです。



新製品 ④

リン脂質除去前処理製品

InertSep[®] Phospholipid Remover

InertSep Phospholipid Removerは、試料を通液するだけで簡単にリン脂質を除去できる固相カラムです。MSを使用した分析において、イオン化抑制を防ぐ目的で使用します。





業績推移と計画

①BC棟・RD棟の貢献、ライフサイエンス

BC棟（総合技術本部：埼玉県）、RD棟（福島工場：福島）にて
 当社の主力製品である、モノリスとInertsilの研究開発を行っております。
 専用施設にて研究開発を行う事により、従来以上の品質と新製品への
 研究開発を行う時間が取れ、将来的に品質の向上へとつながり、
 お客様へ今まで以上により良い品質の製品をお届けすることができております。

《BC棟》



《RD棟》



《クロマト関連》

RD棟（福島工場に隣接：福島）

弊社の主力製品であるHPLCカラム開発を主に行い、コアシュエルなど次世代型充填剤開発も行っています。クロマト関連消耗品はLotUPした場合でも安定した品質を維持する事が重要であり、開発段階からLotUPに対応できる設備も整え、製造時にも安定した品質の製品となるような開発工程を工夫しております。

《ライフサイエンス関連》

BC棟（総合技術本部：埼玉県）

モノリス素材を基本としライフサイエンス関連製品の開発を行っています。医薬品、医療診断などの製造、研究開発の工程において前処理などに使用される消耗品開発を行います。その目的に対応したクリーンルームなど整備し、お客様と近似な環境を整え、質の高い研究開発を行っております。



②島津製作所様との業務提携による活動

①海外販売

主に中国市場における、島津製作所の分析機器とジーエルサイエンスの前処理装置・器具の組合せによる共同マーケティングおよび部品・消耗品を中心とした販売合併会社の設立

- 2007年10月1日 島津技迹（上海）商貿有限公司を設立
- 日本企業連合としてのグローバル展開の模索中

②国内販売

展示会、セミナーおよび講習会の共同開催などの共同セールスプロモーション

- JASIS（分析展）をはじめ、水質・環境セミナーなどの共同開催

③製品・技術開発

両社の得意分野を融合させた新製品・新技術の共同開発

海外においては、中国市場の発展に伴い順調に成長しております。

国内においても、業務提携の効果は出てきております。

③グローバル戦略について

中国

アジア圏では、成長著しい中国市場を最重要視しています。

現地法人：島津技迹（上海）商貿有限公司を通じてマーケティングや販売促進活動を更に充実させ、現地ニーズに対応する製品を強化する事により、更なる市場シェアの拡大を目指して参ります。

アメリカ

現地法人：GL Sciences, Inc. USAは、既存顧客への深耕により販売力を強化してまいりました。今後も既存顧客との関係を深めるとともに、LCカラム新製品投入により新規顧客の開拓を行い、シェア拡大を目指して参ります。

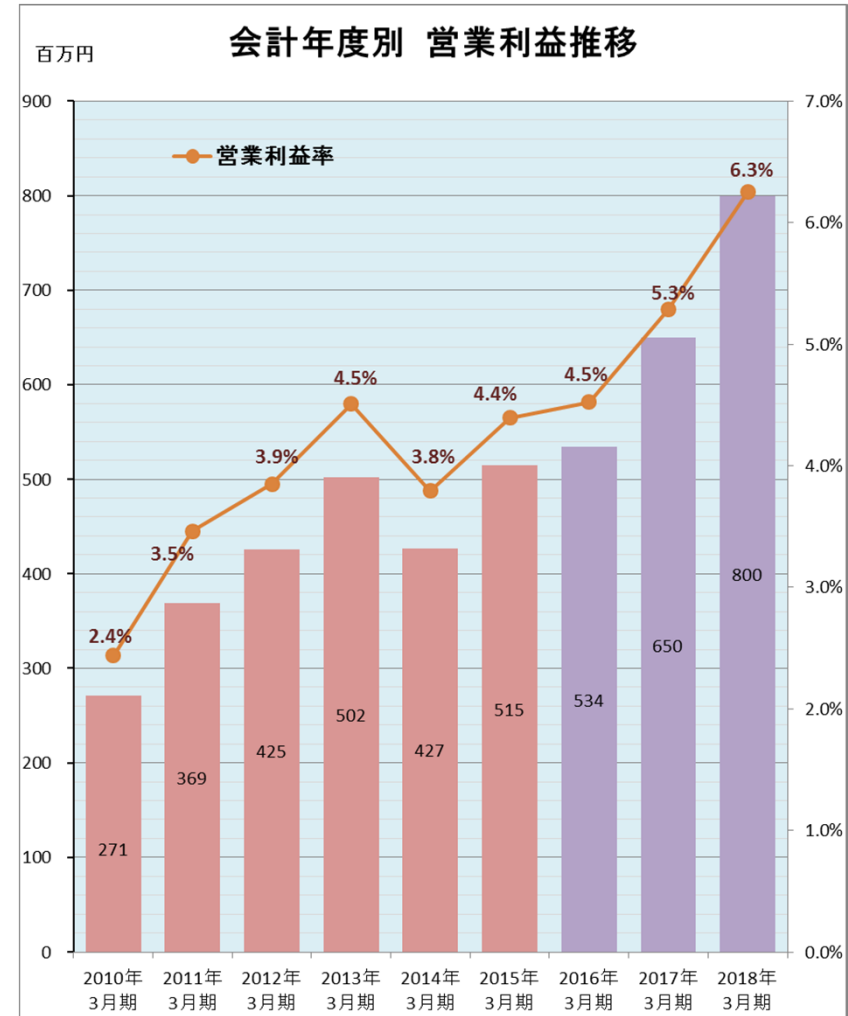
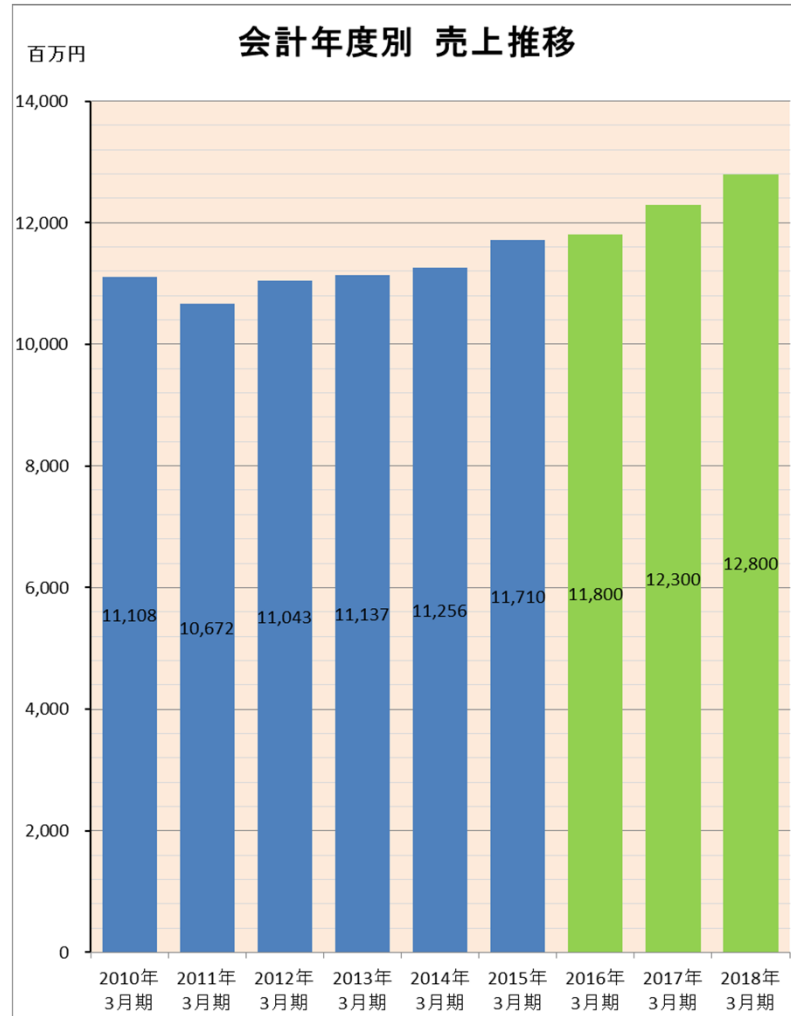
ヨーロッパ

欧州地域への販売は、従来各国販売代理店を通じて行われてきましたが、2014年5月から現地法人：GL Sciences B.V.を通じて、販売を行う体制に変更しております。物流や、顧客サポート、マーケティング等を集約する事で、販売体制を強化し、市場シェア拡大を目指して参ります。

インド

インドでは現地代理店の協力により、インド全土にわたる強靱な販売網を活用して、長期安定的な販売を行っていきます。また、最終顧客である製薬会社の個別訪問を強化する事で、新規顧客を開拓し、市場シェアの拡大を目指して参ります。

④業績推移と計画



平成28年3月期 連結決算 第2四半期 前期実績/当期実績 比較 及び 当期計画/当期実績 比較

●対前期比 ①前期実績 / ②当期実績

①セグメント別

Table showing financial performance for the Analysis Instrument Business (分析機器事業) comparing previous and current periods. Columns include sales, operating profit, and differences.

Table showing financial performance for the Semiconductor Business (半導体事業) comparing previous and current periods. Columns include sales, operating profit, and differences.

Table showing financial performance for the Automatic Recognition Business (自動認識事業) comparing previous and current periods. Columns include sales, operating profit, and differences.

Summary table for the first period comparing previous and current periods across all segments, showing sales and operating profit.

②個別・連結

Detailed financial performance table for the Analysis Instrument Business (ジーエルサイエンス株) comparing previous and current periods, including tax and other items.

(当社所有株式割合：65.2%)

Detailed financial performance table for the Semiconductor Business (テクノオーツ (連結) (半導体事業)) comparing previous and current periods.

※ 2013年(平成25年) 4月 分社化 (当社所有株式割合：100%)

Detailed financial performance table for the Automatic Recognition Business (ジーエルソリューションズ株 (自動認識事業)) comparing previous and current periods.

Summary table for the second period comparing previous and current periods across all segments, including tax and other items.

Breakdown of sales and operating profit by region and product type. Includes domestic/international sales and self-produced vs. other goods.

●対計画比 ①当期計画 / ②当期実績

①セグメント別

Table showing financial performance for the Analysis Instrument Business (分析機器事業) comparing current plan and current actuals.

Table showing financial performance for the Semiconductor Business (半導体事業) comparing current plan and current actuals.

Table showing financial performance for the Automatic Recognition Business (自動認識事業) comparing current plan and current actuals.

Summary table for the second period comparing current plan and current actuals across all segments.

②個別・連結

Detailed financial performance table for the Analysis Instrument Business (ジーエルサイエンス株) comparing current plan and current actuals, including tax and other items.

(当社所有株式割合：65.2%)

Detailed financial performance table for the Semiconductor Business (テクノオーツ (連結) (半導体事業)) comparing current plan and current actuals.

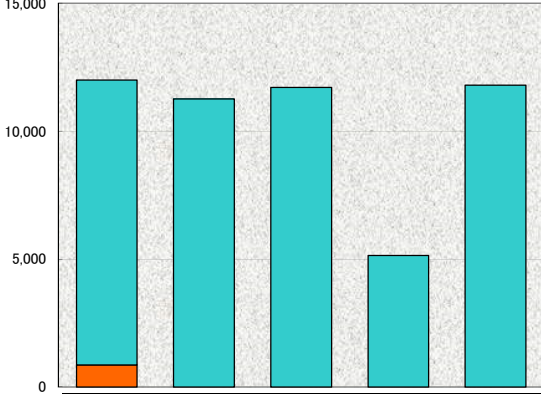
※ 2013年(平成25年) 4月 分社化 (当社所有株式割合：100%)

Detailed financial performance table for the Automatic Recognition Business (ジーエルソリューションズ株 (自動認識事業)) comparing current plan and current actuals.

Summary table for the second period comparing current plan and current actuals across all segments, including tax and other items.

非支配株主に帰属する四半期純利益 15,428 40,703 25,275
親会社株主に帰属する四半期純利益 132,707 1.5 220,603 2.5 87,896 66.2

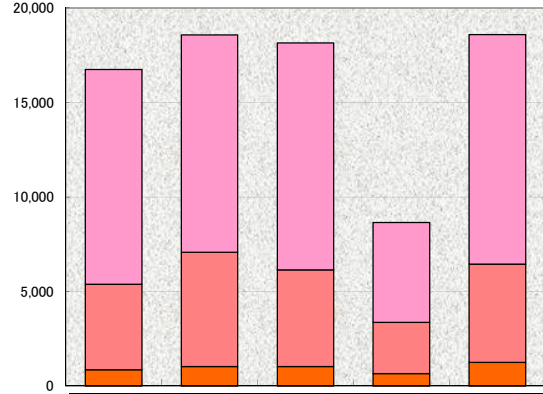
(百万円) 売上高(個別)



	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'15/9(2Q)	'16/3期(予)
分析機器事業	11,137	11,256	11,710	5,134	11,800
自動認識事業	856	-	-	-	-
計	11,993	11,256	11,710	5,134	11,800

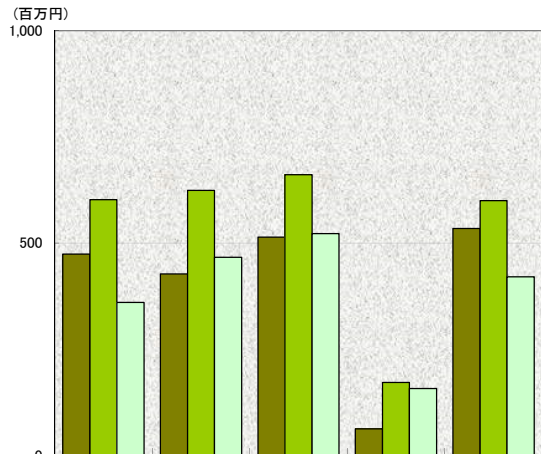
※自動認識事業 '13年4月 分社化

(百万円) 売上高(連結)



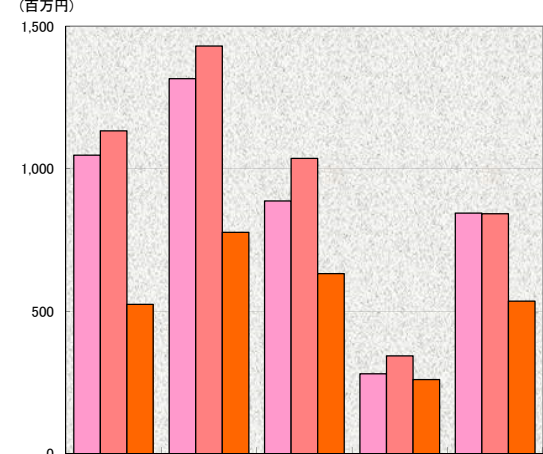
	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'15/9(2Q)	'16/3期(予)
分析機器事業	11,352	11,504	12,002	5,283	12,138
半導体事業	4,531	6,045	5,108	2,719	5,200
自動認識事業	856	1,029	1,033	653	1,250
計	16,740	18,579	18,144	8,656	18,588

営業利益/経常利益/当期純利益(個別)



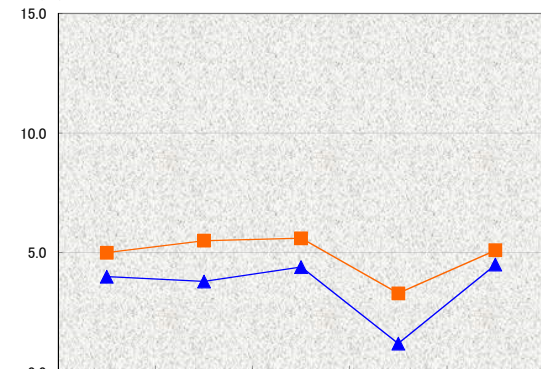
	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'15/9(2Q)	'16/3期(予)
営業利益	474	427	514	62	534
経常利益	602	624	661	171	600
当期純利益	360	466	522	157	420

営業利益/経常利益/当期純利益(連結)



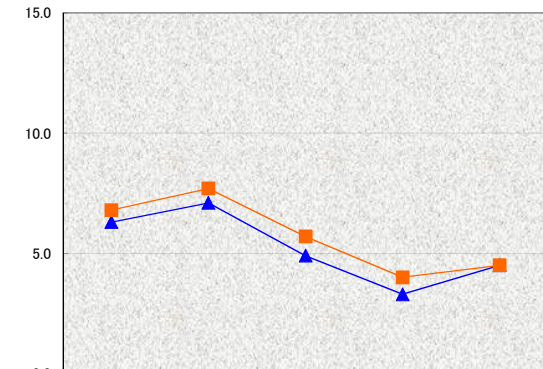
	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'15/9(2Q)	'16/3期(予)
営業利益	1,048	1,316	887	281	844
経常利益	1,133	1,431	1,036	344	842
当期純利益	525	777	632	261	536

売上高利益率(個別)



	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'15/9(2Q)	'16/3期(予)
売上高営業利益率	4.0	3.8	4.4	1.2	4.5
売上高経常利益率	5.0	5.5	5.6	3.3	5.1

売上高利益率(連結)



	'13/3期	'14/3期	'15/3期	'15/9(2Q)	'16/3期(予)
売上高営業利益率	6.3	7.1	4.9	3.3	4.5
売上高経常利益率	6.8	7.7	5.7	4.0	4.5

会社別 実績 及び 計画数値

※2013年(平成25年)4月 分社化

(単位:百万円)

	ジェールサイエンス株式会社(個別)				テクノオウズ株式会社(連結)				ジェールソリューションズ株式会社				連結決算			
	分析機器事業				半導体事業				自動認識事業(※)							
	'14/3期	'15/3期	'16/3期 20	'16/3期 予想	'14/3期	'15/3期	'16/3期 20	'16/3期 予想	'14/3期	'15/3期	'16/3期 20	'16/3期 予想	'14/3期	'15/3期	'16/3期 20	'16/3期 予想
売上高	11,256	11,710	5,134	11,800	6,114	5,177	2,755	5,200	1,032	1,038	653	1,250	18,579	18,144	8,656	18,588
売上総利益	3,920	4,001	1,792	4,125	2,192	1,400	701	1,210	389	396	210	475	6,701	6,045	2,827	6,073
営業利益	427	514	62	534	766	218	147	159	38	31	19	40	1,316	887	281	844
経常利益	624	661	171	600	742	263	151	143	39	31	19	39	1,431	1,036	344	842
税引前当期純利益	613	682	187	600	736	261	150	143	38	31	19	39	1,407	997	343	842
当期純利益	466	522	157	420	438	132	115	90	24	22	13	24	777	632	261	536

第49期 2Q 個別決算
 販管費・営業外損益・特別損益 内訳

単位：千円(単位未満 切捨て)

(販管費)			増減額			増減額	増減率					
	前期	当期		(前期) 第48期 2Q 平成26年9月累計	(当期) 第49期 2Q 平成27年9月累計			前期	当期	増減額		
運賃荷造費	44,271	44,807	536	売上	5,294,918	5,134,374	△160,544	△3.03	(営業外収益)			
広告宣伝費	47,594	40,804	△6,789	売上原価	3,467,861	3,341,375	△126,485	△3.65	受取利息	1,241	895	△346
貸倒引当金繰入	0	0	0	売上総利益	1,827,057	1,792,998	△34,059	△1.86	受取配当金	78,308	94,403	16,095
役員報酬	58,441	57,167	△1,274	販管費	1,729,415	1,730,645	1,229	0.07	為替差益	0	2,966	2,966
給料手当	545,624	560,872	15,248	営業利益	97,641	62,353	△35,288	△36.14	補助金収入	0	0	0
賞与	33,370	37,872	4,501	営業外収益	108,850	117,254	8,403		雑収入	29,300	18,988	△10,311
賞与引当金繰入	139,998	158,708	18,710	営業外費用	9,584	8,208	△1,376		計	108,850	117,254	8,403
退職給付引当金繰入	26,272	△7,917	△34,190	経常利益	196,907	171,398	△25,508	△12.95	(営業外費用)			
役員退職給与引当金繰入	6,330	6,123	△206	特別利益	26,088	16,035	△10,052		支払利息	8,714	5,966	△2,748
法定福利費	113,655	118,689	5,034	特別損失	36,254	126	△36,128		手形売却損(割引料)	0	0	0
福利厚生費	12,139	17,991	5,852	税引前当期利益	186,740	187,307	566	0.30	為替差損	256	0	△256
賃借料	55,711	56,720	1,009	法人税等	34,490	7,380	△27,110		雑損失	612	2,241	1,628
減価償却費	42,364	37,994	△4,370	法人税等調整額	10,735	22,731	11,995		計	9,584	8,208	△1,376
公租公課	21,091	31,595	10,503	当期利益	141,514	157,196	15,681	11.08	(特別利益)			
交際費	7,277	5,095	△2,182	売上総利益率	34.51%	34.92%	0.41%		貸倒引当金戻入益	26,088	16,035	△10,052
旅費交通費	69,252	67,644	△1,607	営業利益率	1.84%	1.21%	-0.63%		固定資産売却益	0	0	0
通信費	13,105	14,210	1,105	経常利益率	3.72%	3.34%	-0.38%		投資有価証券売却益	0	0	0
試験研究費	338,936	322,471	△16,465						計	26,088	16,035	△10,052
支払手数料	60,391	55,706	△4,684						(特別損失)			
車両費	9,273	7,859	△1,414						固定資産除売却損	36,254	126	△36,128
消耗品費	24,279	30,422	6,143						減損損失	0	0	0
その他	60,033	65,802	5,769						投資有価証券評価損	0	0	0
計	1,729,415	1,730,645	1,229						貸倒引当金繰入	0	0	0
									計	36,254	126	△36,128